

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会
都道府県 鳥取県
対象地域 鳥取県全域
対象品目 水稻(コシヒカリ)



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

ドローンで空撮した水稻生育状況のセンシングデータを活用し、鶏糞を基肥利用する際に、ほ場別の生育状況の変位に対応した可変施肥を行うことで、収量の向上と平準化を目指す。

現在の栽培体系

●:基肥散布(化成肥料) ▲:田植え ◆:穂肥散布(化成肥料) 🏠:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		●●▲		◆◆		🏠🏠							基肥：化成肥料14-8-8 穂肥：化成肥料17-0-17
技術名													

グリーンな栽培体系

●:基肥散布(鶏糞) ▲:田植え ■:ドローン空撮 🏠:収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		●●▲		■		🏠🏠							基肥：発酵鶏糞 穂肥：なし ドローン空撮：幼穂形成期
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6 (R5年作付面積)	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	4327 ▶	4327	「鳥取県農林水産業の概要」(2024.7)を参照
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	5 ▶	70	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	5 ▶	70	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	5 ▶	70	

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、
行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	基肥一発肥料	鶏糞を活用した施肥	化学肥料の使用量の削減
	手作業による生育診断、肥料の動噴散布	ドローンによる生育診断、ブロードキャスターによる施肥	水稻生育状況把握の簡素化・施肥作業の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料の使用量（kg）	1,479,834	▶ 1,449,034	県下全域を考慮
	施肥作業の時間（時間/10a）	1.00	▶ 0.03	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

指標は、以下のとおり設定してください。

- 化学農薬の使用量の低減の場合：使用回数、成分数、使用量、ADIなど
- 化学肥料の使用量の低減の場合：使用量、NPK成分量など
- 省力化に資する技術の場合：作業時間、作業人員、作業工程数など
- 有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの排出削減：省略可（設定した場合も、フォローアップの対象とするかどうかは任意とします）
- 化学農薬の使用量低減、化学肥料の使用量低減の場合も、技術の特性上設定が困難な場合は都道府県知事が認めれば省略可

関係者名	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 農業試験場 鳥取県 八頭農業改良普及所	鳥取県 生産振興課		
役割	実証試験・技術指導	事務手続き等		

その他